

2026/10/03

立場の違いから見る浜通り

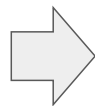
八月 飯舘B班

松本 和佳奈
末田 啓泰
今村 真之介
有田 翔栄
三澤 陽生

測定：市澤畑のブルーベリーについて

- ・ つぶしたブルーベリーをU8容器に入れ、蒸留水をバックグラウンドにして測定した
- ・ 測定の結果、放射能濃度は**ND (< 6.0) [Bq/kg]**となった

※日本の一般食品における放射性セシウムの基準値：**100 Bq/kg**



市澤畑のブルーベリーの放射性セシウム濃度は、食品の基準値を下回っていることが確認された

[市澤畑]



[採取したブルーベリー]



ブルーベリーの測定

自分（研究者、学生）

- 測定自体に後ろめたさがないわけではない
- 学生レベルだから
- サークルなどで測定したことがあった

生産者

- 生活や仕事そのもの
- 風評被害
- 消費者に勘違いされるかも



何が分かり、何が分からないのかを明確にする

研究者倫理

研究者

- 得られた結果や成果は社会に出して還元する
- 探求心・純粋な興味
- 組織化された見方

市民

- 基準値以下でも少しでも検出されたら不安
- 測定していないものはどうなのか



安全と安心

【交流】立場の違いから見る浜通り

Point 1

飯舘に戻ってきた人



飯舘に戻ってきていない人

Point 2

被災当時の山田さん



現在の山田さん

Point 1

飯舘に戻ってきた人



事故後福島県内で牛を育て続け、
飯舘に戻り畜産を再開

飯舘に戻ってきていない人



畜産を行う農家は事故を経て減った



- ・ 飯舘への愛着・村の補助金などが山田さんに飯舘での再開を促した
- ・ 「戻ってきた人」として、飯舘の今後の課題・後継者不足への危機感

Point 2

被災当時の山田さん

事故を起こした東電への憤り
もっとよい避難の方法や、
村にできたことがあったのでは



現在の山田さん

我々に対し東電への強い感情を見せるこ
とはない
畜産のことや補助金のことを主に語って
くださる

- ・ 以前は村民として原発への思いを語っていた
- ・ 交流を通して山田さんは「ビジネスマン」であり、生々しい感情に触れることはなかった
- ・ 15年という時間がこの変化をもたらしたのか？
- ・ 我々は部外者であり、本心を話してくれなかった可能性
- ・ 「過去」ではなく、飯舘の「未来」を見つめている？

立場の違いから見る原発の今後

ダークツーリズム

...「現実の、あるいは商品化された死や災害の現場の提示と（来場者による）消費」

部外者

- 風化させない
- 町の博物館化
- 福島第一原発観光地化計画

当事者

- 生活再建が最優先
- まだまだ続く廃炉作業
- ←は不謹慎である

対話

専門が違う人がいる

▶様々な視点から議論ができた

Ex)

- ・ 実験考察の際のデータ分析
- ・ 廃炉
- ・ 遺構（ダークツーリズム）
- ・ 復興（ショックドクトリン）

福島に来た事が
ある人・初めての人で視点が異な
っていた

Ex)

- ・ 放射線への恐怖
- ・ 原発事故に対する住民の意見の
捉え方の違い
- ・ 東電の方の態度の変化などへの
気づき

まとめ

我々の班は立場の違いから、今回の研修を振り返ってきた

1. 立場ごとにそれぞれの思い、考えがあり、それらをひも解いていき、これからの復興を考えていく必要がある
2. ひも解いていく中で、様々なバックグラウンドをもった者同士で対話をする事で、新たな発見を見出せる